第 6 回中原区区民会議運営部会会議録摘録

1 開催日時 平成 25 年 12 月 25 日（水） 午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分

2 開催場所 中原区役所 5 階 505 会議室

3 出席者

委員 川連部会長、富岡副部会長、板倉委員、藤嶋委員、稲富委員、反町委員、成田委員、

事務局 小野副区長

企画課 今井課長、江口担当係長、倉見担当係長、大崎職員、深谷職員、野並職員

地域振興課 日向課長

社会空間研究所 中島、栗林

4 議題

(1) 第 7 回中原区民会議の運営について（公開）

(2) その他（公開）

5 傍聴者 なし

6 会議内容

(1) 会議録確認委員の選任

板倉委員を選任した。

(2) 審議テーマ「第 7 回中原区民会議の運営」について

事務局 検討の方向性、資料の確認。

川連部会長 「第 7 回中原区区民会議の運営」について進行を進める。まず、課題調査部会の審議結果について、課題調査部会の部会長である板倉委員よりご報告いただきたい。

板倉委員 資料に基づき、第 4 回及び第 5 回課題調査部会の審議内容について説明。運営部会でご意見を頂きたい。

川連部会長 課題調査部会長のほうから取り組みの課題が明らかになっているので、一つ一つの取り組みについての皆様の意見を伺いたい。

まず一つ目の取り組み、1. 魅力発見ワークショップの開催について意見のある方はお願いします。

事務局 川崎市で行った事例としては、川崎の魅力再発見ワークショップがある。魅力再発見ワークショップの主旨としては、シティセールス戦略プランを考える中で、川崎の魅力を一言で表現すると何か、意見交換により絞っていくことであった。その中では最先端技術や多摩川の自然等の魅力が多く挙げられた。ワークショップを進める中で、参加者同士の交流が生まれ、それぞれの考える魅力を共有できたことなどが効果として確認された。

- 成田委員 中原の魅力は歴史的にも網羅されているし色々な団体がそれぞれ活躍されていると思うが、ワークショップで様々な年齢構成の人々を集めたうえで個人個人の思う中原の魅力を出していくのはどうか。今までの魅力や既存の発信方法に偏っていると、似たようなものができてしまう。インターネットのブログなどを拝見していて面白いと思うのが「武蔵小杉ブログ」である。武蔵小杉を中心にいろいろな情報が網羅されている。実際ブログだけでなくツイッター等のメディアも使いながら若い方から高齢の方まで気軽に情報発信しており、またそれに対し返信をしているというのがパターンとして有効である。新しい発想を出せる方がこのような場に加わると、より良い。
- 藤嶋委員 このあいだの課題調査部会で、かるたやガイドの養成でまとめようかという話が出ていた。しかし成田委員の言うように今までにない意見も聞きたい。
- 川連部会長 現在、新しい住民の方が増えていて中原の魅力といってもわからないかもしれない。区民が集まって話し合うワークショップであるが、区民を集めるのが大変で、課題である。
- 反町委員 今後区民会議として魅力について発信していくということで一度は開催した方が良い。ワークショップの人集めや運営などはエネルギーの必要なことであるが、開催することによって今後、中原区の区民会議としては最新の情報をPRしていくことができる。
- 稲富委員 お話をして絞り込んでいくということも必要なことである。以前から住んでいる伝えたい人と新しく移ってきた人というような切り口で、お互いの意見交換をするとよい。
- 川連部会長 防災訓練のように大勢の人が集まってもらえるとよい。
- 板倉委員 材料があるということだと思う。特に40周年の写真集などがあるが、その作成に携わった方に説明をしてもらうだけでも随分違う。
- 富岡委員 ワークショップはぜひやって頂きたい。新たな発見が出てくる可能性がある。大勢の団体の意見を集約すれば今後の方向性も出てくる。中原区の魅力が浮彫になってきて団体間の交流もできる。魅力発信も課題であるので、意見交換したのちに行政を交えて情報発信につなげて、いかに活用できるか。ワークショップで終わってしまっただけでは意味がない。
- 川連部会長 いろいろな団体の方が集まって話し合えば思わぬ魅力が出てくるかもしれない。運営部会としては、取組として進めていくという結論。
- 反町委員 では次の2.かるた・紙芝居の作成についてご意見のある方はお願いしたい。
- 反町委員 かるたを作るにあたって、魅力発見ワークショップで出た意見がそのままネタになると思う。ワークショップと連携することで、良いかるたや紙芝居ができる。課題調査部会では、紙芝居のストーリーをどうするかという話をした。中原区の防災紙芝居で絵をかいてくれた方がいるので、その人にスケジュールの折り合いがつけばお願いできる。かるた・紙芝居は個人的には作りたい。
- 川連部会長 今回は出ていないが稲富委員の言っていた中原の盆踊りを作りたいという

- 話だが、丸子には中原音頭があるらしい。
- 藤嶋委員 中原音頭はあるが、時代が古いため使えない。
- 稲富委員 歌を作るというよりは集まって聞くチャンスとして、盆踊りは有効ではないかと思った。魅力をどう伝えるかが課題なので、知ってもらえるツールとして。
- 川連部会長 紙芝居であるが、やはりテーマが必要である。作るにあたってどういうテーマにするのか意見を伺いたい。
- 藤嶋委員 結局中原の魅力というものがテーマになるのではないかと。主人公を設定して、区内を巡っていくストーリーにする。
- 反町委員 紙芝居として流れ・ストーリーを考えないと区内の場所がとびとびになってしまう。つなげる工夫・シナリオが重要である。ハード面、もの自体を作るノウハウはある。
- 成田委員 地域を絞って紙芝居をつくることは簡単であるが、中原区全体を網羅したうえでとなると難しい。子どもには好評なので、できれば子育てサロンなどでも活用できるとよい。
- 稲富委員 防災は明確に伝えたいものがある。紙芝居は伝えるものがあるってそれを伝えるものにしないでほしい。中原の魅力を知らない子どもが、理解していく過程をストーリーにしたらどうか。
- 藤嶋委員 子どもは遊びとかゲーム性がないと楽しめない。
- 成田委員 子育てサロンの中のある一画で紙芝居をするのであれば、人は集まりそうである。長時間やるよりも10分くらいの間のほうが集中して聞くことができる。長いと子どもというよりもお母さんが飽きてしまう。
- 反町委員 伝えたいものを入れるというのは基本であるが、観終わったあとに内容のクイズを出すなどの工夫が必要である。そうすると子どもも真剣に見てくれるしイベントとして盛り上がる。今回も中原の魅力をクイズを盛り込むとよいと思う。
- 富岡副部会長 子育てサロンでも、防災の話になるとお母さん方が真剣になって聞いていたので関心事であると感じた。
- 川連部会長 反町委員のように若い人が企画から運営までやってもらったらどうか。
- 反町委員 シナリオさえあればできる。
- 富岡部会長 一人暮らし会の会合でも使える。お年寄りの方も中原区の魅力を知らない人も大勢いるし、防災という観点でも知識が入ってくるといきいきしてくる。紙芝居というのは一話だけでなく二話、三話と話が続けていくものである。一回で終わらず、何回かに分けてもいい。
- 事務局 先ほど反町委員にという話があったけれども、前回防災紙芝居を作成したときは反町委員が中心となって行ったのか。
- 反町委員 母体のNPO法人でやらせていただいた。
- 事務局 区民会議で提案されてやるのであれば、実行委員会などを作ってメンバーに入って作っていったほうが自然である。

事務局 今回の区民会議の任期が終了して作ったとしても問題はないので、期日の6月にこだわる必要はない。

川連部会長 やはり委員会を作って行ったほうがよい。作る方向で決めさせていただく。それでは次の取り組み、3. 中原ブランドの制定についてご意見を伺う。例として読売新聞に掲載されていた商店街の観光資源の記事をあげる。元住吉オズ通りのイーハトーブという店で大人を対象にしたパフェづくりをやったというもので、このような活動は地域の活性化につながる。

事務局 川崎市で「ものづくりブランド」というものを行っている。これは川崎市と商工会議所で組織しており、川崎ものづくりブランド推進協議会というものがある。本年度は11件認定をしているが、中原区では5つが認定されている。認定にあたっては認定委員による審査がある。応募申請に必要な書類が、会社のパンフレット産業財産権に関する証明書、納税証明など。中原区のブランドといっても安易に認定するのは難しい。

川連部会長 簡単に考えていたが難しい。

藤嶋委員 5つとは具体的に何か。

事務局 防災備蓄用クイックマップ・樹脂を切るリサイクル加工技術・電気三輪自動車・ドライブレコーダー・パワーセーブモニターというような製品である。

富岡副部会長 営業の観点を含んでいるので不公平さが出てくる。中原区ではブランドはいい気さうな気がする。川崎市でマイスターを発表している。中原区でマイスターを出すのはいい。

事務局 やはりブランドとして注目されればそれだけ会社の利益につながる。選定する際も見識を持った人をどのように集めるのかも問われる。

藤嶋委員 まして区民会議で選ぶのは良くない。

板倉委員 川崎市のブランドは冊子がある。

川連部会長 中原ブランドについては保留にする。では次の4. 中原区のものづくり体験、PRについて意見を伺う。40周年の時に中原区内の各工場で作った品物を市民館の方へもってきていただいた。そのような捉え方でよいか。

板倉委員 子どもたちに体験をさせようというのが主体である。

川連部会長 このあいだ商店街でまちづくり推進委員会の企画で始まった。3コースに分かれて親子で体験をしようというものである。1つめは井田のしょうゆ、豆腐屋を巡るコース、2つめは中原図書館の裏側と屋上から見るコース、3つめは下丸子の商店街でフラワーアレンジメントとコーヒーのおいしい入れ方教室のコースである。子どもたちも体験してもらった。募集はかけた日にすぐ満員になったらしく需要はありそうである。

稲富委員 こういう体験をさせるものをプログラムで持っていてはどう使用すればいいかわからない。学校やボーイスカウトなどで申込みならばわかる。何があのかを教えて、もっと申し込めるようにすることが必要である。

川連部会長 商店街でも教えるのに協力してくれる店を探すのに苦労した。子どもたちも

- コーヒー教室に真剣に取り組んでいた。
- 稲富委員 区民会議で作るというよりは、こういうプログラムに申し込める、という情報をお知らせする範囲でよいのではないか。ルートを知らないだけなのでもっとオープンにする。どこに掲載するのか。
- 事務局 チーム等々力という5社が参加している団体がある。中原小も3年生は地元の工場見学があり毎年チーム等々力の展示場へ見学に来ている。また、川崎市から委託されてチーム等々力の展示場で毎年夏休みに親子体験を実施している。万華鏡の作成をそこで行っている。中原区としても子ども支援ネットワークという団体に委託をして親子ものづくり教室を開催している。これは工場から出た端材・廃材などを活用してパッチワークなどをつくる。こういう事業に乗っかるというのも一つの手である。
- 川連部会長 うちの商店街にも建設会社があり、よくイベントで行っているのは子どもたちに箱を作らせるような大工仕事体験である。他に何かあるか。
- 富岡副部会長 私が考えたのは各企業だとか職場に親子で見学がてら何かしらの体験ができるというものである。ものづくりだとしめ縄など、色々あるもののこれらが中原区の魅力発信につながるかと問われると違う気もする。
- 板倉委員 色々な団体がやっているので、区民会議が前へ出てやらなくてもよい。
- 川連部会長 工場見学というのは良いかもしれない。富士通では何かあるか。
- 稲富委員 今は花祭りとかクリスマスイベントとか公開している。そこに行けなかった人たちはどうやったら見に行けるのかわからない。そこをどうやって教えるかが課題である。さっきのチーム等々力のような団体に情報提供をして、活用してもらえればよい。
- 川連部会長 5. 魅力案内ガイド育成講座の開催について意見を伺う。
- 藤嶋委員 今退職して案内したいという意欲のあるシルバーの方がいらっしゃる。中原歩こう会がちょうど11月に行っている。
- 川連部会長 中原には散策ガイドの会や20年構想委員会もある。
- 藤嶋委員 色々ある。生涯学習センターでも沢山行っている。
- 川連部会長 これからガイドをつくっていくということで、実際に育成講座はやっていけるのか。
- 藤嶋委員 中山先生達は市民館を拠点に行っていると言っていた。
- 富岡副部会長 体育指導員で、歩け歩け運動といって鎌倉など遠いところまで散策・見学する会がある。中原区であればそれほど広くない。散策しながらガイドさんに要点を説明し、1日過ごすというのは健康にも脳活性化にも役立つ。ボランティアガイドは川崎区にあるので中原区にあってもよい。
- 副区長 体育指導員、今はスポーツ推進委員という。年間11回ほど歩こう会というものを行っている。大体2か月に1回は市内・市外を巡る。コラボすることは可能である。
- 川連部会長 育成講座の開催には時間も必要である。

- 藤嶋委員 育成講座というより、歩こう会での取組を考えたらいい。
- 川連部会長 歩こう会のようなものを利用して歩きながら勉強してもらおうということも可能である。
- 藤嶋委員 最初の意見交換のワークショップも人集めの方法が問題である。40周年のときも5月の開催だったが思ったより人は集まらなかった。実際ワークショップに人が集まらなければそれを課題にして結果をだすことができないと思う。市民館は使えるのか。
- 事務局 区民会議事業として、市民館等が空いていれば利用することは可能である。
- 川連部会長 では次に6. メディアネットワークとの意見交換について意見を伺う。各メディアの方を呼んで区民会議の委員と意見交換という形になる。タウンニュースには情報を流している。最近はイツコムが非常に力を入れてやっている。日程さえ決めれば会ってもらえる。
- 事務局 なかはらメディアネットワークの構成メンバーは6社である。イツコム・かわさきFM・K-press(web 関係)・タウンニュース・タマジン・スーモである。各メディアはそれぞれ媒体が違う。発信方法も様々なので各社の意見を聞くのは難しい。逆に利用して発信してもらうあり方の方が良い。
- 川連部会長 では7. 情報コーナーの活用について意見を伺う。区民会議で決まったことを発信してもらおう。タウンニュースなどは見ている方がとても多い。
- 稲富委員 課題調査部会であった話だが、マンションのチラシはほとんどいかないとのことである。タウンニュースやイツコムなどに情報源が集約しているのでは非活用したら良い。
- 川連部会長 8. メールマガジンの発行について意見を伺う。
- 稲富委員 掲示板など伝える手段はあるものの、伝わり方が偏っている部分がある。こういうものがあるよという発信として使用する。保健所に来た際に登録をお願いして、付加価値としてイベントの情報を入れる。実利のあるところにプラスして情報をインプットできる。定例だと読まないのイベントのある時だけ送る。
- 川連部会長 中原区の中にも成功事例がある。元住吉のオズ通り商店街。客のアドレスを持っていて、一斉に売り出しの情報を発信している。
- 成田委員 今、新聞をとらない世帯も増えている。タウンニュースをweb版で見る方も多いので、有効だと思う。
- 事務局 メールマガジンは来年の2月下旬には発信する。定期的に発信していくのかトピックごとに発信するのかは考える必要がある。ちなみに他の区役所は幸・高津・麻生区は既にメールマガジンを発行している。登録件数も伸びている。
- 稲富委員 市で防災情報を送るものはある。区から伝達するものもここで取り入れたら登録者が相当増えると予測する。緊急避難所のデータベースなどは魅力になる。まずは必要だと感じてもらうことからである。
- 成田委員 区民会議の開催日が平日なのは難しい。会議内容はホームページで公開され

- ている事実をもう少し知ってもらおう。
- 川連部会長 区民会議の情報も流してもらおうことにする。
- 反町委員 実際に配信するにあたっての具体的な流れはどこまで決まっているのか。誰がどのタイミングで内容を決め、チェックは誰が行うのかなどは決まっているのか。
- 事務局 基本的に企画課で発信するかたちである。今後詰めていく。
- 反町委員 戻るが、メディアネットワーク情報コーナーの活用で、設置の仕方・見せ方をもっと目立つようにしたらどうか。構成されているメディアのうちイッツコムなどは映像がメインなので、金銭的には大変であるがディスプレイなどがあるとよい。
- 事務局 情報発信拠点は現在市内に5か所存在する。東急の構内（小杉・元住吉）にも設置予定である。設置するラックはイッツコムの協力もあり今までよりだいぶ派手になっている。
- 川連部会長 メディアネットワークで実際に使えるところは、その都度のタイムリーな情報を載せてもらえるという意味でもタウンニュースとイッツコムくらいしか思いつかないがどうか。
- 事務局 季刊誌のスーモやタマジンについては特集を組んでいる。これらは四半期で1回ずつ発行している。そこで特集を組みスーモやタマジンなりの企画に沿って中原区のイベントを紹介してもらおう形をとる。題材が違うので毎回同じ内容というわけではない。
- 川連部会長 区民会議を知ってもらうためにも利用できるところは利用する。もっとコミニカルする。
- 事務局 では意見交換は以上とする。皆さんの意見を参考にして次回区民会議の報告資料を作成する。事務局との調整は私に一任させていただく。
- 事務局 ①区民会交流会を1月22日の18:00～20:50に予定している。内容としては区の各取り組みの発表と各委員同士の意見交換である。
- ②子育てふれあいカフェを3月18日に開催する予定である。室内か屋外かも含め、会場については未定である。飲食も提供する。内容は調整中である。
- ③委員長のほうから区民会議で統一したジャンパーを作ってはどうかという話がある。今年度作る方向で調整をしている。
- 川連部会長 それでは、本年最後の区民会議運営部会を終了する。

以上